地質観光情報の開発と利用の試み－ジオパークを目指して－

Utilization of Geological Information as Tourist Attractions(First attempt for Geo-park in Ibaraki Prefecture)

松原 典孝 [1]; 小峯 慎司 [1]; 伊藤 太久 [1]; 及川 敦美 [1]; 黒田 真平 [1]; 地質情報活用プロジェクトチーム 松原　典孝 [2]
Noritaka Matsubara[1]; Shinji Komine[1]; Taku Ito[1]; Atsumi Oikawa[1]; Shinpei Kuroda[1]; Matsubara Noritaka Ibaraki University Geological Information Utilizing Project Team[2]

[1] 茨大・理・地球; [2] -
[1] Environmental Sciences,Ibaraki Univ.; [2] -

http://geotourde.gozaru.jp/

近年，日本においては観光立国宣言がなされ，観光開発により地域社会の活性化を目指す動きが活発である．中でも世界遺産に並ぶものとして「ジオパーク」が注目を浴びている．これは科学的に重要な地質遺産を資源とした自然公園であるが，その地域の文化，教育，観光などの振興をとおして地域社会の活性化を目指している点で，いわゆる自然公園とは異なっている．現在，複数の自治体が名乗りを上げているが，今後一層の盛り上がりを見せることは確実である．

地質は地球そのものである．したがって，今まで一般的な観光資源を持っていなかった地域でも豊かな自然を資源としてジオパークを実現することも可能である．一方，従来すでに観光資源のあった地域においても，ジオツーリズムなどを通して，それを豊かな自然とリンクすることにより総合的な観光開発ができる．しかし，ジオパークを計画していく上で解決すべき問題がある．それは，研究者や一部のマニアにしか理解できなかった「地質情報」を，一般市民にも理解できるような魅力的な「観光情報」にいかに転換できるかということである．専門家にとってどんなに魅力的な露頭でも，手軽に利用できる一般市民に理解できる説明がなければ，それはただの崖にすぎない．本プロジェクトは，地質情報を観光情報に利用できるようかみくだき，それを用いてジオツーリズムのモデルコースを作成することにより，地質情報活用の可能性を模索した．

今回，モデルコースとしたのは筑波山・霞ケ浦周辺地域である．この地域は首都圏にも近く，観光スポットとしての筑波山神社や筑波山温泉等も有する．さらに筑波山は昨年日本地質百選にも選ばれているため，モデルコースには最適である．本プロジェクトではまず，ジオツーリズムの手段・対象者を設定，その上でモデルコースを「筑波山コース」と「霞ケ浦周辺コース」に設定した．その後，それぞれのコースに最適と思われる地質資料（露頭）を選定，さらにコース近辺の資料館や物産館等の観光資源を取り入れた．これらの情報をコース毎の「地質観光まっぷ」に記載，周辺の鉄道会社やホテル等の観光拠点へ配布を依頼した．地質観光まっぷにはユビキタス技術も取り入れ，地質観光まっぷに記載しきれない情報を QR コードから携帯電話にて読み込めるようにした．

今回の試みで，地質情報を観光情報へ変換する事に成功した．観光情報に変換した後の地質情報は露頭毎に Web を作成してあり，単独でも応用可能なため，ジオツーリズムや観光ツアーの趣旨に合わせたコース作りが可能である．特定地域内に複数のコースを設定することで，リピーターを増やすことも重要であろう．また，同様の手法は他地域でも応用可能であり，今後の地質情報の観光資源化に期待できる．

本プロジェクトの推進に当たって，株式会社サイボックステクノロジーには技術面で全面的に協力いただいた．また，茨城大学社会連携事業会からは資金の援助をいただいた．